

中学生からの提案 市民の心をはぐくむまちづくりを



10月22日、恵那東中学校で市内中学校の生徒が、若者の視点から市長らにまちづくりの提案を行う懇談会が開催されました。

懇談会は、「私たちの提案」私人らこんな恵那市にする」をテーマに開催され、市内8中学校から16人、市長、市議会議員、教育長、西尾執行恵那東中学校長、総合計画推進市民委員会会長の有本信昭岐阜大学教授、司会者としてまちづくり推進課長の22人が参加しました。

生徒からは、市民が一体感を感じる必要性や、地域の医療や福祉の充実、歌舞伎など各地域の伝統文化の後継者問題、中学生同士の交流などの提案が出されました。

今回は、懇談会に出された主な意見を紹介します。

恵那西中学校

国際力をもつと身に付けるため

国際理解教育、国際交流が盛んなまちづくりについて考えました。恵那市にも外国の方が増えてきていま



山本綾斗君



古町圭市君

す。僕はもつと外国の方と会話をしたり、互いの文化を交流し合ったりしていきたく思います。そのため外国語会話のための力を身に付け、お互いの文化を交流する場所へ進んで参加していきたいと考えています。

学校でもALTとの授業がもつとあつたらいいと思います。恵那市全体で現在5人のALTがいると聞きました。もつとALTとの授業が増えたら英語を聞き取る力、英語で表現する力が増して、小さいころから恥ずかしがらずにコミュニケーションや文化交流ができると思います。

市民の憩いの場となる公園を

身近に親しまれる憩いの広場のあるまちづくりについて提案します。

僕たちが小学生のころ、市役所の前にふれあい広場がありました。子どもにも、お年寄りにも楽しめる公園として多くの人が利用していました。子どもが広い芝生の上で走り回ったり、家族でボール遊びをしたりして楽しんでいる光景や、お年寄りの方がのんびりと散歩しているのを見ました。ふれあい広場は子どもだけでも安心して遊べるとも快適な場所だったと思います。だからこの公園がなくなってしまうことはとても残念に思います。

今でも町にはいくつかの公園があり立派な公園もありますが、狭く思いついて遊ぶことができない公園や、家から遠いこと、死角も多く怖そうなお園など、子どもだけでは遊びにくいと思いました。

そこで、町のあちらこちらにもっと身近に親しみの持てる緑の広場、憩いの広場のあるまちづくりをしていきたいと思いました。

恵那東中学校

あいさつの町としては

あいさつ活動を市内の学校一斉に生徒中心で行うことを提案します。

今、各学校ではPTAや先生が朝のあいさつ活動を行っていると思いますが、そのあいさつ活動を生徒会が中心に計画を立てて実行していきたいと思えます。そして市内の中学校全部が、一斉にあいさつ活動をし



永山将君



西尾果歩さん

ます。これだけでも、恵那市はあいさつ活動の活発な地域だと思えます。もちろんイメージアップだけでは

く、あいさつをすることで普段の生活に使うあいさつも、より充実したものになると考えられます。

将来的にはあいさつのまち恵那と呼ばれるくらい地域の人も恵那と

合唱交流で明るいまちづくり

中学校の合唱交流会の実施について提案します。私自身、合唱がすごく好きで全員の息がピタッと合ったところがすごく気持ちいいし、歌っていてとても楽しいです。

今、一番市内で合唱しているのは絶対に中学生です。「恵那の中学生はこんなにうまい」「こんなに素晴らしい合唱ができる」というところをもつと多くの市民の人知ってもらいたいです。この活動により市全体の文化活動の向上にもつながっていくと思えます。



合唱をきっかけに市民が歌を口ずさむことができる明るい雰囲気の中に、また、いい合唱のできる学校

は授業でもあいさつでもいろいろなところで活躍できる学校だと思います。だから学校同士で高め合いができる、向上できる恵那市になっていくといいと思います。

明知鉄道に乗り恵那の良さを知る

突然ですが、皆さんは明知鉄道に乗ったことがありますか。最近の明知鉄道はパワーがないような気がします。しかし走っているところはすごく自然豊かで、景色もきれいでゆっくり走るところはとても心が和みます。車窓から見える景色がとてもきれいでそういうところが恵那の良さだと感じています。

もつと多くの人に明知鉄道を利用してもらうため、それとともに恵那の良さを市民にもう一度知ってもらうためにも、私が提案するのは明知鉄道スタンプラリーです。

このイベントで、恵那にはこんないいところがあるんだと、恵那の魅力が再発見、再確認できるようにしたいです。同時にほかの町の人にも恵那を知ってもらえるチャンスだと思つので、大規模な宣伝ができると思います。

さらに企画や運営を中高生などのボランティア団体で行えると、若者が活躍する活気ある恵那市のPRにもなると思います。

恵那北中学校

老人福祉施設の充実を

恵那市民が真に恵那の良さを感じられる、子どもからお年寄りまで恵那が好きだと自信を持って言える恵那市になれると思います。



柘植友紀君



遠藤和弥君

僕は福祉の充実を通して安心して暮らせるまちづくりを提案したいと思えます。

市内にある老人ホームに入るには6年半待たなければいけないという話を聞きました。少子高齢社会といわれる中で、これでは恵那市に住むお年寄りが安心して暮らすには、厳しい環境ではないかと思えます。そこで老人福祉施設を充実していたら誰かが安心して暮らせる町になるのではないのでしょうか。

レジャー施設で観光産業を活性化

魅力あるまちづくりを目指して提案します。

恵那市にクリスタルパーク恵那スケート場ができて多くの観光客が来

てくれています。それは大成功だと思いません。しかし、お年寄りから小さなお子さんまで遊べるようなレジャー施設をもっと増やしていただけると、さらに魅力ある町になるのではないのでしょうか。

例えば明智町の大正村の町おこしのように観光スポットがたくさんあると、恵那市にもたくさん観光客が訪れ、観光産業が発達すると思います。笠岡地区にも、もっと充実したレジャー施設を造っていただきたいと思っています。

岩田中学校

市中央図書館を文化の中心に



今井美奈子さん

杉本真弥君

恵那市中央図書館を文化の中心となる図書館にしたいと思います。

恵那市中央図書館ができ、今まで市内には大きな図書館がなかったのだともうれしく思います。図書館の中はとても広く、静かでいい所だと思いました。

そこで、私たち恵那市民がたくさんの本を利用できる方法がないか考

えてみました。

図書館は恵那市の中心にできませんが、私たち恵那方面や恵那でも中心から外れた人たちにはなかなか利用しづらいところがあります。

今、恵那市中央図書館では、学校や公民館などで本を借りられるシステムがあると聞きました。しかしまだうまく利用できていません。そのシステムをもっとうまく利用することができれば多くの本を借りることができると思います。

ほかに恵那市中央図書館のホームページを開けば、何でも調べることができるとインターネットを使った情報公開ができると、もっと良くなると思います。

恵那市中央図書館を通して、多くの人たちがたくさんのお本と出会い、そこからいろいろなることを学んでいただけると思います。

恵那市を日本のふるさとに

恵那市は日本の真ん中、日本のふるさと恵那市ということで整備していくといいと思います。

その要素として、恵那市にはそれぞれの町にその材料となるものがたくさんあると思います。今日は僕たちのふるさと岩村町について話したいと思います。

岩村町は重要伝統的建造物群保存



道端に「ごみ」のない恵那市に

皆さんは富士山を「ご存じ」ですよね。離れて富士山を眺めればとてもきれいな景色です。しかし、富士山にはたくさんのごみが捨てられています。そのごみのせいで富士山を世界遺産に登録できずにいるという話を聞きます。ごみが捨てられているだけで、その物自体のイメージに悪影響を及ぼします。

富士山同様、恵那市にもこのように美しい自然や景色がたくさんあります。しかし、道端や河川にはジュースの空き缶やお菓子の入っている袋など、さまざまのごみが落ちています。特に山中など、人目に付かないところには不法投棄として大きなごみが捨てられています。

こんなふうでは恵那市の美しい風景は失われ、恵那市自体のイメージダウンにまでつながってしまいます。

そこで、一定期間内に市内の小中学生による「ごみ拾い」を行ってはどう



市民の心を大切にしたい

もう一つ大切だと思ふことがあります。それは恵那市民としての心、誇りといってもいいでしょうか、環境が良くなっても市民の心が良くなるとは真の良い町とは言えません。

自分の利害だけを考え、恵那市全体を考えない姿勢はいけないと思います。だから行政だけでなく私たち恵那市民も、「私のふるさとには恵那市です」と胸を張って言えるそんな心を持った市民にならなくてはいいなと思います。

この語る会の準備をする中で、私たちが一番感じたのはこの心です。私たちが大人になったとき、そんな

地区として国から保護されている町並みなどがあり、休みの日には多くの観光客が訪れます。

しかし、よく考えてみると岩村町には宿泊施設がありません。そこで古い民家を改築して宿泊できるようにする。または一般家庭へ招待したらどうでしょうか。町外から岩村町へ来た人に岩村町の一日に触れてもらい、岩村町をゆっくり見ていただきたいのです。

僕は岩村町出身ということに誇りを持っていきます。これは岩村町のことで、恵那市には明智の大正村や山岡の寒天、上矢作や串原の山々、恵那の宿場町、中山道、美術館、まだまだ日本のふるさととして大切にしていきたいものがたくさんあります。日本中の人が行ってみたいと思う恵那市にしたいと思いま



心のある市民になりたいと思えます。

明智中学校

ずっと暮らしていきたい恵那市に



野村小百合さん

松原美生さん

恵那市を子どもや若者があふれる、ずっと暮らしていきたいと思える市にしてもらいたいと思います。

明智中学校は全学年3クラスあったのに2クラスに減ってしまいました。このままいけば私の中学校は10年もしないうちに1クラスになってしまいます。私は少子化という事実を身をもって体験したからこそ、よりの子どもが増えるまちづくりを大切にしたいと思っています。

そこで提案があります。それは恵那市で子どもを産める環境を作っていくということです。今、恵那市内には産婦人科がありません。これは将来子どもを産む私たち女性から見るとすごく不安なことなのです。

もし自分が一刻を争う事態になっても、何十分も車で移動しなければ診てもらえないと考えると、とても

山岡中学校

健康を保つための医療福祉環境を



長谷川真美さん

西尾浩一君

医療福祉について提案します。市内には大きな手術のできる病院は1カ所しかありません。さらに重度の病気になると多治見や名古屋まで行かなくてはなりません。また産婦人科は恵那市には一つもありません。でも病院建設には膨大なお金がかかります。そこで今ある施設を充実させたらどうでしょうか。

例えば最新の医療設備を整えることで、早期発見ができ、入院をする人の数自体を減らすことができると思います。

福祉についても同じように、福祉施設を利用する数を減らしたほうがいいか。山岡には健康プラザという施設があります。ここは元気なお年寄りをつくるための施設です。こういった施設を恵那市中に作ることで老人ホームを必要とする人が減ると考えました。

恐ろしい気持ちになります。多くの妊婦さんは実家に戻って安心して産める環境で産みたいと思う人が多いと思います。しかし、このような状態が続けば自分のふるさとで産みたいと思う女性も減っていく一方ではないでしょうか。少子化対策という面でも、ぜひ産める環境をつくってほしいと思います。

歌舞伎をもっと広めたい

今年の9月30日、第15回飛騨美濃歌舞伎大会が明智かえでホールで行われました。恵那市からは明智と飯地の保存会が参加しました。

恵那市は県内最多の歌舞伎保存団体所属地区です。計8つの保存団体が現在活動しています。どの保存団体も日々努力され、一人でも多くのお客さんに来てほしい「楽しんでいてほしい」きつとそんな熱い思いがあると思います。

でも、越えなければいけない大きな問題が一つあります。それは後継者不足です。今、明智の歌舞伎保存団体が後継者不足です。

保存団体は、大人でも子どもでも入れるところが多いと思います。それでも集まりにくいと思います。

そこで私は提案します。地歌舞伎の小中学校での公演です。子どもたちはきつと歌舞伎というものを見た

ことがないのではないかと思えます。歌舞伎という日本の伝統文化を次世代に残していくのなら、やはり小中学生に見てもらい、面白さや、やってみたいという興味を広げていく必要があると思います。

串原中学校 バス運行の充実を



原田智司君



松井柚子さん

串原はとも田舎で鉄道は通っていません。だから唯一の交通手段はバスです。そのバスも利用者が少なく、時間通りに来たり、来なかったりしている状態で、平日は多くて3、4本。祝日は、ほぼ1本しか通っていません。

学校へ通うのにバスを利用する人は小中学校合わせて全校の半数以上を占めています。夏休みや祝日には、バスが止まってしまい、部活があってもバス通学の人は保護者の方へ送ってもらわなくては学校へ来る



こともできません。

串原にはお年寄りの方が大勢いらっしゃいます。お年寄りの方の多くはバスを利用し、バスが来ないととても不便です。だから串原の路線バスを定期便にして、毎日運行してほしいです。

地域の大切な文化を広めたい

中山太鼓の紹介をします。串原中学校では、中山太鼓を授業として行っています。授業は毎週金曜日の6時間目に行われ、串原にある中山太鼓保存会の方が直接指導をしに来てくださいます。

そのほかにも、串原の運動会や文化祭、県内はもちろん、ときには県外にまで演奏しに行くこともあります。僕たちはそんな中山太鼓をとてもうれしく思っています。毎年のお祭りで太鼓をたたき、その音で串原住民はずっと元氣付けられてきたのだと思っています。

中山太鼓は串原の大切な文化です。僕たちはそんな中山太鼓をもつ

有本信昭教授のまとめ



私の感想を3つほどにまとめてお話しします。

心ある市民をいかに増やすか

一つは山岡の長谷川さんですね。心ある市民とおっしゃいました。これは地域の永遠の課題、人類の永遠の課題。こういう人をどれだけ増やすことができるか、これが最大の課題だと思えます。どういつ具合に人々の心をつくっていくのか。実は皆さんが学校で習っている教科学習というのは、そういう心ある市民になるための基礎的な学力をつくっているんだと私は思っております。

課題の発見と対策を考える心

二つ目は、皆さんから発表のあった提案ですが、これは具体的には課題があり、その課題解決のための対策の一つを提案していただいたと思えます。

この課題の発見と対策の提示、こういう心、もしくは志、表現はいろいろあります。熱い思いでも結構です。こういったものを持ち続けてい

と多くの人の目に触れるように広めていきたいと思っています。地域ごとの文化や人が交流でき、格差のない恵那市になっていくしたいと思います。

上矢作中学校

地域ぐるみでかわれる福祉環境を



青木麻里也さん



大島龍也君

上矢作町は現在、高齢化率が約40%と恵那市で一番高い数値です。また独居老人の方は110人おられ、約5割を締めています。万が一のことを考えるとお年寄りの方々の日ごろからのかわり方が大切です。

上矢作中学校では、体育祭や合唱祭にご招待していますが、今後はさらに定期的にかかわりを持つことが必要ではないかと考えています。

例えば普段の学校を参観いただけような環境を整えたり、総合的な学習の時間を利用して独居老人の方のお宅を訪問したり、上矢作町の歴史について学習する機会をつくっていきないかと考えています。また学校と福祉施設を隣接させ、



地域ぐるみでかわっていきける福祉施設を目指せないのでしょか。

いつまでも自然ととも

次に、いつまでも自然とともに暮らせるまちづくりについてです。

上矢作町は自然豊かな町で弁慶杉や新田の桜、福寿草などほかの地域に誇れるものがいくつもあります。

しかし国道沿いや通学路にはごみが落ちています。空き缶やたばこの吸い殻が多く、大人のぼい捨てが多いのが現実です。

上矢作中学校では毎月1回クリーンウォークという名称で登下校時に清掃活動を行っています。この活動の狙いは地域のごみを減らすことは当然ですが、地域の方とのかかわりを深めるという狙いもあります。

こういった清掃活動は各学校でも行われていると思いますが、期日を決めて恵那市一斉のクリーンウォークが企画できないでしょうか。

例えば毎月1日はクリーンウォークの日と位置付け、各学校の学校便りで紹介したり、広報えなどで取り

減っていく中で、若くて優秀な人に来てもらいたい。ですから、非常に鋭い都市間競争にさらされている。

今の中学生の皆さんが職を選ぶときは、だいぶ先のことでありますけれども、そのときまでに恵那市として、若い人々をひきつける力をできるだけ強めて、できるだけ多くの人に帰ってきてもらう。やりがいがあるって自分のふるさとに貢献できる仕事だということで、再び恵那市に帰ってきていただけるようになるというなと思えました。

以上、心ある市民というものは人類、地域の永遠の課題であって、なかなか難しい課題であります。やっぱりこれにチャレンジするしかない。

二つ目は、今持っている熱い思いを、テーマは変わってもいいですが、将来にわたって、生涯にわたって持ち続けて研さんしていただきたい。

三つ目は、若い人々を受け入れることができる産業基盤といいますが、受け入れの態勢を新しい恵那市ができるだけ早く、今よりももっと強固にしないとここにいる優秀な人たちは再び戻ってきてくれないかもしれない。多くの人が戻ってきてくれるように市として、市民全体として対応を急ぐ必要があります。

り上げていただけたらすれば、地域の方も協力して大きな流れになっていくのではないのでしょうか。

一体感を感じながら暮らす

最後に、一体感を感じながら暮らせるまちづくりについてです。

市内の各地域には、素晴らしい文化や行事などがあります。それらを恵那市全体で交流するようなことはできないでしょうか。

各町の伝統芸能を発表できるようにして交流を深めていけないでしょうか。学校間でも今まで以上に恵那市内で一体感のある活動ができるのではないのでしょうか。

中学校でも、合唱コンクールや生徒会活動交流が持てれば、交流する場も増えるし、お互いに高め合うことができると思います。

さらに今日のように集まり、恵那市生徒会合同会議が開催できればよい良い生徒会活動が行われると思います。特に上矢作町のような小規模でへき地にある学校にとっては、外からの刺激を受けられる他校との交流は本当に価値のある活動になります。

そして、一体感を感じながら暮らせるまちづくりを進めていくことができますれば、より素晴らしい恵那市になっていくと思います。